



口元に笑みが  
こぼれる生活を

● 中村 賢太郎

国労東日本本部 執行副委員長



夏休みは小学生にとって一番楽しみなイベントだ。日曜日が一ヶ月以上続くなんとも幸せな期間だ。その時期に合わせて楽しい行事がいろいろある。プール、海水浴、花火大会、夏祭り、キャンプ、カブトムシ取り・・・挙げればキリがない。日替わりで楽しい事が待っている。

私にとってもいわゆる夏休み期間は18きっぷを利用して自由気ままな乗り鉄旅が楽しめる、鉄道大好き少年に戻ることができる楽しいひとときだ。

しかしこの二年間、夏はただ暑いだけの季節となった。夏休みに楽しい思い出を作る事はできなかった。コロナの影響だ。プールや海水浴場は閉鎖され、花火大会や夏祭りは中止、三密回避で施設は閉館や入場制限が行われ外出自粛が求められた。

そんな中、私たちは外出をお手伝いする仕事を行っている。「不要不急の外出は・・・」。わかっている。でもその人にとっては、「今、必要」なのだと思う。

緊急事態宣言は解除されたが、私たちは感染のリスクと隣り合わせで自分たちの仕事に誇りを持って日々取り組んでいる。会社はその事に応えてほしい。

一日も早くコロナを克服し、マスク不要の、口元に笑みがこぼれる生活を迎えたいものだ。

